

令和3年度

社会福祉法人 希桜会

事業報告書

■ 法人本部

■ 軽費老人ホーム

ケアハウス サニー秋桜

■ 地域密着型介護老人ホーム

きさらぎ荘

みやのぎ荘

■ 小規模多機能型居宅介護事業所

うめの香

たちばな倶楽部

法人全体

<総括>

新型コロナとの望まぬ共存が2年目を迎え、当施設内においても陽性者が発生した。しかし、医療との連携、職員間の協力により、感染拡大には至らずに留めることができた。コロナ感染防止の対策や罹患者の対応等、職員には重い負担を強いることになってしまった。また、コロナ感染拡大の長期化により、制約された生活の中で高齢の入所者には身体・精神・認知機能の低下など健康面での様々な影響が危惧される。生活の維持向上のため、感染対策を引き続きおこなった上で、早期の具体的な状況改善が必要と思われる。

法人の業務管理の面では、処遇等の諸規定の見直しを継続的に実施し、体制の強化に努めた。人材採用においては、福祉専門学校周り、インターネット求人サイトやホームページによる職員募集をおこなったが、リクルーティングは厳しい状況にあり、人員補充の面では困難な一年となった。

<重点項目に対するの評価>

年間計画	評価・取り組み
(1) 新型コロナ感染症対策	新型コロナ感染症の予防対策は継続的に実施し、さらに重点的に住環境の整備に取り組んだ。結果、特養において職員・入所者と数名の罹患者をだした際も医療・介護の連携を取り、職員が協力して対応にあたることが出来たため、感染拡大を最小限にとどめることができた。
(2) サービスの質の向上	資質向上を目指し、職員の専門知識・技能習得を図るため、資格支援制度を取り入れ、法人としてバックアップ体制を構築した。また、コロナ感染拡大のために外部研修等が制限され自粛することもあった。喀痰吸引講習の現地研修が保留のままになり次年度への課題とする。
(3) 人材の確保・育成に向けた取り組み強化	新卒介護職採用はなかったが、中途採用ではある程度の人員が確保できた。また、入国制限により遅延していたミャンマー人技能実習生4人の次年度内受け入れが確定した。
(4) 働き方改革関連法への対応	働き方改革・格差是正に取り組み、非常勤職員の就業規則、給与規程、育児・介護の休業規程の改訂を実施した。
(5) 新パンフレット・HPを活用した広報活動	法人パンフレットを更新し、利用希望者・関係者・求職者への理解促進につなげることができた。リニューアルしたホームページでは、施設内の暮らしの様子など公開し、ご家族には大変好評であった。
(6) 介護保険法改訂にともなう取り組み	科学的根拠を基とした介護実践としてのLIFE導入については、費用対効果など検討した結果、今年度においては見送ることとした。

令和3年度 サニー秋桜事業報告書

I. 概要

新型コロナウイルス感染拡大が続き、「まん延防止等重点措置」の発令、延長、再度の適用や市内・県内の高齢者施設においてクラスターが発生するなど、社会的にもコロナ収束の見通しがたたない不安定な状況下にあったが、施設では感染予防対策に努め、新型コロナウイルス等感染症の罹患者を出すことなく皆、健康で穏やかに過ごすことができた。

生活面では、年間行事やレクリエーション活動を創意工夫しながら開催・実施することができた。また、2月から給食委託業者を地元の業者に切り替え、鮮度の良い地場野菜の提供が可能になり、食事の質の向上と安全、経費削減を図ることができた。入所者からも概ね好評であり、残食・欠食も減少した。

施設整備の面では、各居室のエアコンの入れ替え等当初の予算どおり執行し、今期は臨時的な大規模な修繕の発生もなかった。

今年度は、昨年に引き続き退所者が10名以上あり、入退所の入れ替え準備が慌ただしかった。入所者の高齢化や持病の悪化、転倒による入院の長期化などによるものであるが、空き部屋をつくることなく、滞りなく待機者を入所させることができた。

その他、職員の資格取得制度を活用し、実務者研修や介護福祉士取得試験に臨むことができた。しかし、コロナ禍のため研修会の参加、外部機関への情報提供、地域との連携強化等、積極的におこなうことができず、次年度へ課題持ち越しとなった。

II. 運営報告

(1) 入院・事故報告他

事項	件数	備考
入院件数	10	前立腺癌 右手首・左肩甲骨骨折 うっ血性心不全 他
救急搬送	6	慢性疾患の悪化 他
事故報告書(千葉市)	4	居室内転倒 他
苦情に関する受付	0	
給食業務に係る事故報告	7	異物混入 調理工程ミス

令和3年度事業報告

(2) 施設整備

修繕・修理関係	厨房食洗器
器具・備品購入	入所者居室エアコン（交換）8台
	入所者居室温水器（交換）1台
	厨房 ウォーマーテーブル 1台
	厨房 電気ホットワゴン 1台

(3) 施設安全・衛生管理

項目	実施月
自動ドア点検	4月 10月
エレベーター点検	5月 7月 10月 1月 年次点検 9月
電気工作物	毎月 年次点検 4月
消防点検	6月 12月
受水槽・水質調査	7月
害虫駆除・館内清掃	6月 12月（館内清掃）
消防訓練	3月

(4) 年間行事・委員会・研修

	行事	委員会	外部研修
4月			
5月	菖蒲湯		
6月	甘味茶屋	感染症委員会①	
7月	七夕飾り	身体拘束研修	
8月	納涼祭 出張「キッチンカー」		
9月	長寿を祝う会	感染症委員会②	
10月			救命講習
11月		高齢者虐待防止委員会	福祉サービス苦情解決研修
12月	クリスマスカフェ	感染症委員会③	
1月	新年会		
2月			
3月	ひな祭り 「茶会」	感染症委員会④ 事故防止委員会	

		身体拘束研修	
その他	毎日：ラジオ体操 週1回：喫茶店 健康体操 隔週：介護予防運動 ミニデイ 買い物便運行 月2回：映画上映会	【会議】 処遇会議 月1回 給食会議 3ヵ月/1回	

Ⅲ. 入所者状況報告

- (1) 介護保険サービス利用状況
- (2) 年間入退所者数
- (3) 年齢別入所者数
- (4) 介護度別入所者数

※ (1) (2) (3) (4) 全て令和4年3月31日現在

- (1) 介護保険サービス別利用状況

項目	利用者数
訪問介護	13
訪問看護（訪問リハビリ含）	6
通所介護（デイサービス）	12
通所リハビリテーション	1
福祉用具貸与	13
計	45

- (2) 年間入退所者数

R3 入所稼働率	新規入所者数	退所者数
100%	12人	14人

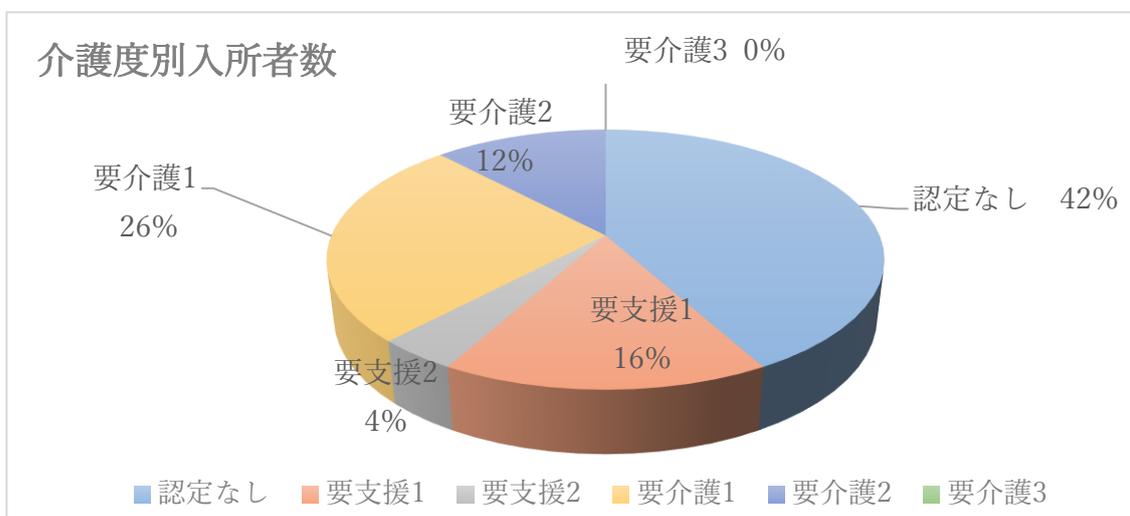
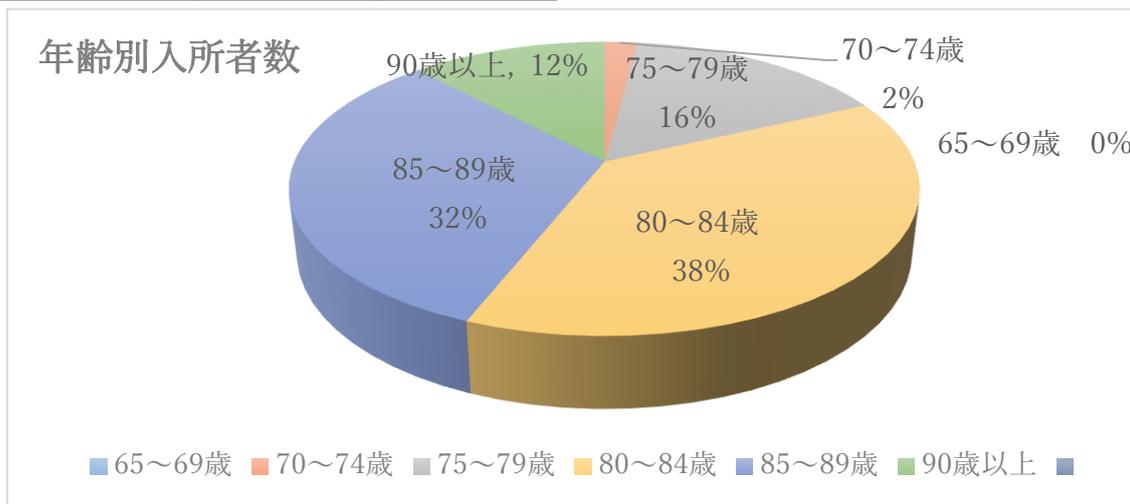
※ 令和4年4月 2名入所予定

(3) 年齢別入所者数

年齢別	人数	比率
65～69歳	0	0%
70～74歳	1	2%
75～79歳	8	16%
80～84歳	19	38%
85～89歳	16	32%
90歳以上	6	12%
合計	50	100%
平均年齢	84	

(4) 介護度別入所者数

	人数	比率
認定なし	21	42%
要支援1	8	16%
要支援2	2	4%
要介護1	13	26%
要介護2	6	12%
要介護3	0	0%
合計	50	100%



地域密着型特別養護老人ホーム 事業報告書

(きさらぎ荘・みやのぎ荘)

I. 概要

新型コロナウイルス感染症拡大後2年が経過し、当法人特養2施設においても散発的に感染者が出たが、日頃より感染症対策に注力していたため、集団感染を防ぐことができた。

また、両施設で前年よりも施設での看取り介護を多く実践することができた。医療との連携により、住み慣れた場所での生活を継続支援することができた。

令和3年は介護保険法改正があり、科学的介護実践（通称：LIFE）の導入を検討したが、費用対効果を検証し、今年度導入には至らなかった。また、栄養ケアマネジメントの強化がさらに重要視され、当施設においても管理栄養士を中心に多職種連携を図りながら「美味しく楽しく口から食べる」ことを前提に取り組み、成果を上げることができた。

II. 入所者状況

① 年間入退所者数 ※（）内は昨年度

	きさらぎ荘	みやのぎ荘
延べ入所者数	38 (33)	35 (34)
入所率 (%)	93.1	95.9
入院件数	9 (3)	7 (9)
退所者数	9 (6)	8 (5)
看取り件数	7 (3)	5 (1)
その他 ※1	2 (3)	3 (4)

※1 医療機関または他施設への転院

② 要介護度分布

単位：人



令和4年3月31日現在

③ 新型コロナウイルス感染症罹患者数およびワクチン接種率

	きさらぎ荘	みやのぎ荘
罹患者数	0	3
ワクチン接種率(3回目)	93%	92%

④ 栄養マネジメントに関して

食事意欲の低下や大きく体重減少に転じた入所者に対して、ミールラウンド（実際の食事場面を通じて管理栄養士が接触状況を見て回ることを重ね、他職種との連携を図りながら食べない（食べられない）原因を検討した。嗜好の考慮、栄養補助食品の提供、個人的なエネルギー量の算出等本人に最適な食事提供をしたことで、体重増加に繋げることができた。

栄養状態分布	きさらぎ荘	みやのぎ荘
低・栄養リスク(人)	13	15
中・栄養リスク(人)	13	10
高・栄養リスク(人)	3	4



Ⅲ. 事故報告

施設で事故防止の取り組みとして事故防止委員会を毎月1回実施した。当該月に発生した事故を委員会にて分析し、再発防止に取り組んだ。昨年度と比較し、転倒事故は減少したものの服薬関係（誤薬、飲ませ忘れ）の事故が増加した。服薬事故についてはダブルチェックの習慣化と各職員の危機意識の強化を図り、次年度は服薬事故防止に努めたい。

延べ件数	きさらぎ荘	みやのぎ荘
転倒・転落	24 (26)	17 (20)
服薬	15 (14)	18 (10)

※（ ）内は昨年度

その他※1	27 (61)	15 (12)
合計	66 (101)	50 (42)
行政への報告	2 (6)	3 (8)
ヒヤリハット	22 (5)	49 (75)

※1 外傷・物品破損・脱出など

IV. 年間行事・委員会・研修

【きさらぎ荘・うめの香】

月	行事	委員会	研修
4月	お花見		AEDの使用方法
5月	端午の節句	身体拘束・虐待防止委員会	排泄と移動《外部》
6月	パンバイキング	感染症委員会	排泄について、認知症対応スキル向上《外部》、介護技術向上《外部》
7月	七夕ところてん作り 鈴カステラ作り		緊急時対応、食中毒予防
8月	納涼祭 コサージュ作り	身体拘束・虐待防止委員会	高齢者虐待防止、オムツのあて方
9月	敬老会	感染症委員会	事故防止
10月	さんま祭り		感染症
11月	文化祭 見浜園外出	身体拘束・虐待防止委員会	ポジショニング、認知症介護実践者研修《外部》
12月	クリスマス会	感染症委員会	口腔ケア、介護技術総合《外部》、認知症介護基礎研修《外部》
1月	初詣（コロナの影響で中止）		事故防止
2月	節分	身体拘束・虐待防止委員会	身体拘束廃止、認知症対応型サービス事業管理者研修《外部》
3月	桃の節句 クレープ作り	感染症委員会	認知症への理解
その他	毎日：集団体操 不定期：買物同行 月1回：お誕生日会	【会議】月1回開催 リーダー会議 給食会議 研修会議 行事会議 事故防止会議 防災・防犯会議	

【みやのぎ荘・たちばな倶楽部】

月	行事	委員会	研修
4月		身体拘束・虐待防止 事故防止・感染	新人研修 多職種連携の目的と意義
5月			介護の目的
6月		事故防止・感染	食中毒
7月	中華バイキング	身体拘束虐待防止	身体拘束虐待
8月	納涼祭	事故防止・感染	事故防止
9月	敬老会		高齢者のリスク
10月		身体拘束・虐待防止	介護記録
11月			看取り介護
12月	クリスマス会		入浴介護
1月		身体拘束・虐待防止	個人情報
2月			身体拘束虐待
3月			介護施設で働くこと

V. 職員について

① 採用状況

	きさらぎ荘	うめの香	みやのぎ荘	たちばな倶楽部
【常勤】	4	2	5	1
介護職	3	2	3	1
看護職	0	0	1	0
その他	1	0	1	0
【非常勤】	4	1	7	1
介護職	3	1	5	0
看護職	1	0	2	0
その他	0	0	0	1

② 有給休暇取得率

単位：%

雇用形態	きさらぎ荘	うめの香	みやのぎ荘	たちばな倶楽部
常勤	42.5 (39.9)	69.0 (77.1)	56.0 (53.0)	46.0 (61.0)
非常勤	36.2 (58.9)	95.0 (84.8)	39.0 (90.0)	82.0 (55.0)

※()内は昨年実績

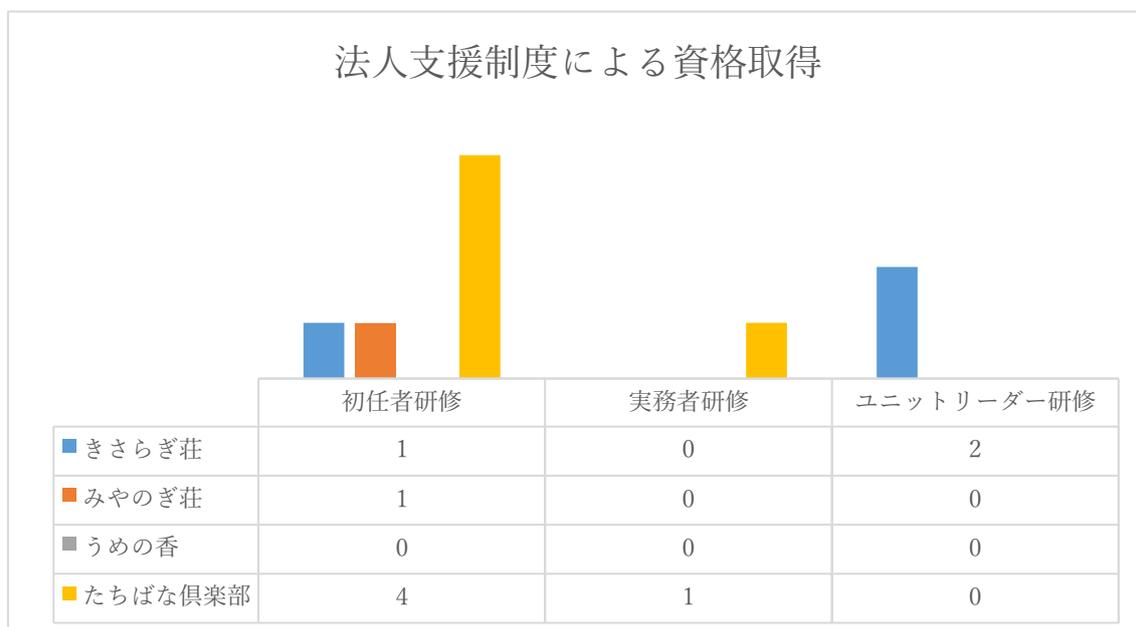
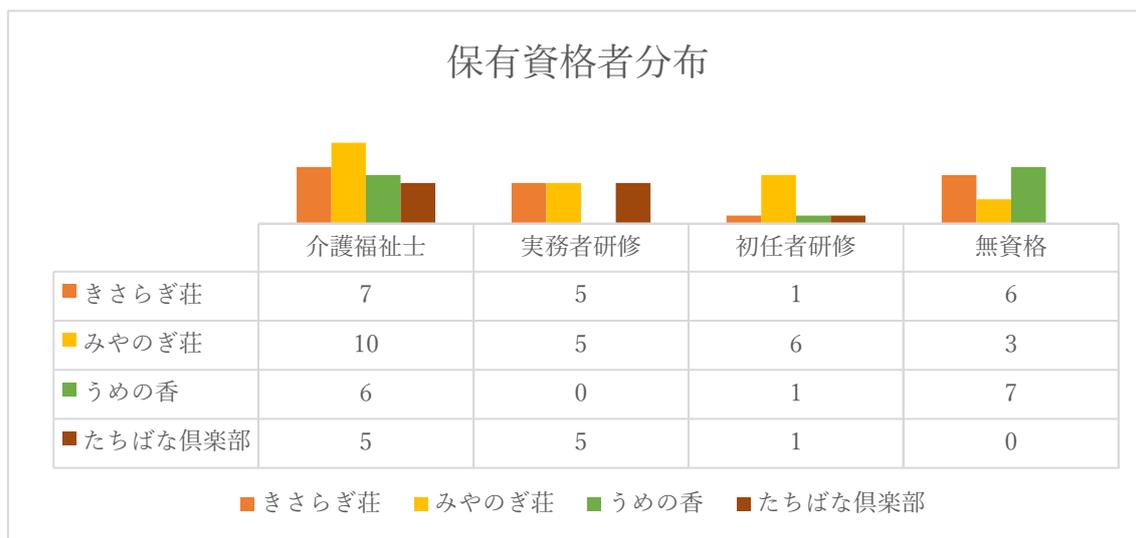
③ 平均残業時間数

単位：(1人・時間/月)

雇用形態	きさらぎ荘	うめの香	みやのぎ荘	たちばな倶楽部
常勤	15.7 (13.9)	15.4 (21.6)	1.7 (3.7)	1.0 (0.8)
非常勤	14.6 (7.1)	3.2 (1.7)	1.4 (1.0)	1.2 (1.0)

※()内は昨年実績

④ 職員の資格保有内訳



見浜園に行事レク（きさらぎ荘・うめの香）



毎年恒例の納涼祭 キッチンカーイベント
（みやのぎ荘・たちばな倶楽部）



感染症対策
4事業所での合同研修

小規模多機能居宅介護事業所 事業報告

(うめの香・たちばな倶楽部)

I. 概要

コロナ禍においても地域では介護サービスへのニーズが高まっている。あんしんケアセンター（地域包括支援センター）からの相談も増加しており、通所サービスを主とした訪問介護・宿泊利用は、そのサービスの柔軟性から利用者にとって使い勝手が良く、利用の申し込み件数は増えている。

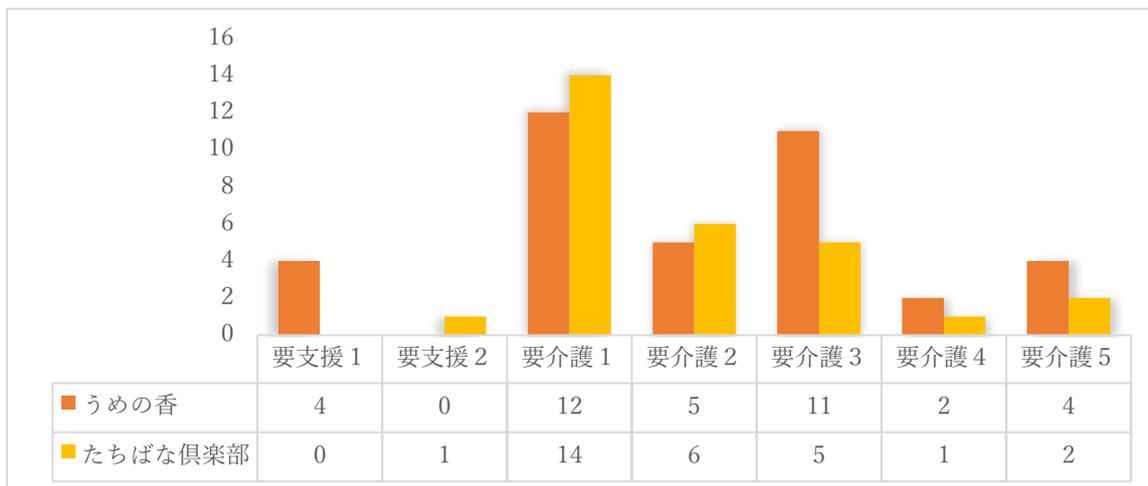
コロナ感染防止対策のため、利用者に不自由をさせてしまった面もあったが、地域・利用者・ご家族とのコミュニケーションを図り、従来と変わりなく居宅介護の支援ができた。

II. 利用者状況

① サービス稼働率（年間利用者数/登録者数） 単位：%

サービス区分	通い	訪問	宿泊	全体
うめの香	85.3	62.1	28.7	91.4
たちばな倶楽部	65.2	80.1	60.9	94.5

② 要支援・介護度別分布



令和4年3月31日現在

III. 事故報告件数

両拠点とも昨年度対比で大きく変動は見られなかった。服薬事故においては一定の数値で昨年度対比にて減少している。今後の課題としては「服薬事故の危険性」を認識するための仕組みづくりである。

※()内は昨年度

延べ件数	うめの香	たちばな倶楽部
転倒/転落	10 (10)	5 (5)
服薬関係	17 (21)	1 (4)
その他※1	14 (9)	1 (4)
合計	41 (40)	7 (13)
行政への報告	2 (0)	2 (3)
ヒヤリハット	10 (9)	57 (53)

IV. 運営推進会議の開催報告

	うめの香	たちばな倶楽部
開催回数	4回	5回